

松林桂月 まつばやし けいげつ 南宗畫家、漢詩人。明治九年八月十八日山口縣萩生れ、昭和二十八年五月二十日歿（八七—一九六三）。舊姓待藤、諱篤、字子敬。別號桂月山人、櫻雲洞主人、玉江漁人、香外居士人等。明治一十七年野口幽谷の門に入り、南宗畫を修めて花鳥山水を能くした。三十九年山岡米華等と日本南宗畫會を結成。爾後帝展審査員、帝國美術院會員、帝室技藝員、日本美術協會理事等長、日本南畫院會長を歴任。昭和二十二年文化勳章受章。

著書、『明城先生を語る』（編、昭和十一年八月十五日刊）、『南畫の稽古方』（昭和十一年九月十八日崇文堂出版部）、『櫻雲洞詩鈔』（昭和二十七年十月十五日刊、桂月會）等。

